

## 閉会挨拶（9月30日）

運輸総研理事長の佐藤です。お疲れのところ恐縮ですが、今後の予定のお知らせの前に、一言ご挨拶申し上げます。

まず、研究発表とそれに基づく討議を行っていただいたラジャリ研究員、鈴木先生、花岡先生と山内所長に敬意を表するとともに、長時間にわたりご参加いただいた大勢の皆様、そして当研究所の活動をご支援いただいている日本財団に御礼を申し上げます。

本日のラジャリ研究員の研究は「物流」を直接の対象とするものでしたが、同時に「サステナビリティ」に関するものでもありました。「サステナビリティ」につきましては、当研究所でも今年度から「海運及び航空の分野におけるCO2削減取組に関する研究」や「持続可能な観光地域経営の推進に関する研究」を開始しているところです。発表の中でラジャリ研究員は、「サステナビリティ」を構成する3要素として「経済・環境・社会」を挙げましたが、これを聞いておりまして、当研究所が行っている「サステナビリティ」に関する研究においても、「社会」の要素とは何かについて、今一度よく考えてみる必要があると思った次第であります。

さて、本日、研究発表を行ったラジャリ研究員はネパールの出身で、本年1月

から当研究所で活動されていますが、昨年度までは韓国出身のチェ研究員とベトナム出身のヌエン研究員が当研究所で活動されていました。また、当研究所は、韓国の交通研究院や中国の総合運輸研究所と研究連携や交流活動を継続してきております。先日開催した当研究所の理事会において理事からもご指摘があったところですが、運輸総研では、こうしたアジアの研究者とのネットワークを大切に、今後とも拡充させたいと考えております。本日までご参加いただいた皆様の中で、日本で交通運輸観光分野の研究を行っているアジア出身の若手研究者にお心当たりがある方は、是非、当研究所への情報提供をお願いしたいと思います。

私からは以上です。この後、今後の予定のお知らせがあります。

本日は、最後までご視聴いただき、誠にありがとうございました。